

耳鼻咽喉科・頭頸部外科	
診療科目：耳鼻咽喉科・頭頸部外科	
診療科担当研修責任者名： 堀井 新（耳鼻咽喉科・頭頸部外科診療科長）	
診療科連絡先担当者名： 泉 修司（耳鼻咽喉科・頭頸部外科エデュケーショナルマネージャー）	
受入期間：1ヶ月以上	同時受け入れ可能数：4人以内
◇◇学会認定専門医数◇◇	
日本耳鼻咽喉科学会専門医14人、日本頭頸部外科学会頭頸部がん専門医4人、日本癌治療学認定医4人、内分泌外科専門医1人	
◇◇学会認定指導医数◇◇	
日本耳鼻咽喉科学会専門研修指導医10人、日本頭頸部外科学会頭頸部がん専門指導医2人、日本耳科学会耳科手術暫定指導医1人	
診療科の概説・特徴	診療科研修の特徴
耳鼻咽喉科・頭頸部外科は、鎖骨より上の、脳と眼球を除いた広い領域を担当しています。聴覚、平衡覚、嗅覚、味覚という感覚器や、嚥下、発声、睡眠、呼吸といったヒトにとって重要な機能の障害や、腫瘍性疾患などに対して、診断から治療までを一貫して行います。対象患者は小児から高齢者まで幅広く、診断のための検査、薬物治療などの内科的側面から、機能改善、がんの根治を目指す多くの外科的手術も行っている、感覚器・機能の専門診療科です。 耳領域では、重度難聴の患者が聞こえを取り戻すことができる人工内耳手術や、聴力改善、耳漏停止などを旨ず鼓室形成術などを数多く行っています。めまいに対しては急性めまいだけでなく、慢性めまいに対してリハビリテーション、認知行動療法などを組み合わせた多角的な対応をしています。鼻領域ではアレルギー疾患に対する新しい薬物治療や、ナビゲーションなどの最新機器を用いた内視鏡下手術を多く行っています。咽喉頭頸領域は、扁桃炎などの急性炎症疾患の対応から、嚥下、音声機能などの機能改善を目指した手術を行っています。入院患者のうち多くを占めるのは頭頸部腫瘍患者です。頭頸部腫瘍の治療では病変の根治を目指すとともに、嚥下、発声機能などを考慮し、手術、放射線治療、化学療法を組み合わせ、患者に最適な治療法を選択しています。また当科は大学病院でありながら、耳鼻咽喉科救急医療をはじめとした一次、二次医療に対するニーズにも応えており、扱う症例は非常に多岐に渡っています。	病棟で主治医とともに患者を担当し、病棟業務、手術に携わります。入院から治療、退院にいたる一連の流れの中で、耳鼻咽喉科・頭頸部外科領域の診察法、検査、処置、手術手技の基本を習得することができます。また全身麻酔手術の周術期管理や、頭頸部腫瘍患者では放射線治療、化学療法に伴う全身管理を学ぶことができます。外来では耳鼻咽喉科専門的検査や、治療の適応判断、治療後の経過観察を学ぶことができます。担当する患者については、将来の希望を考慮しつつ、耳鼻咽喉科・頭頸部外科疾患を偏りなく経験できるよう配慮しています。 病棟、外来、手術室には最新の内視鏡、顕微鏡、モニターシステムがあり、指導医と画像を共有しながら研修をすることができます。医局、検討会室には多くの書籍も完備されており、知識、技術の予習、復習がいつでもできる環境が整っています。毎週の症例検討会では、全入院症例の検討を行っており、最新の知識を偏りなく習得できるとともに、プレゼンテーションの技術を身につけることができます。 当科では診療と同様に、学生、研修医教育に力を入れており、指導医全員が丁寧な指導を行っています。学会認定資格を持った多くの指導医も多く、知識、技術も豊富です。 小児から高齢者まで、内科から外科まで、専門性高いものから全身管理まで。広い範囲の多くの疾患を学ぶことができる耳鼻咽喉科・頭頸部外科での研修は、今後の医師としての基盤形成に役立てると思います。